



インクルーシブデザインの現在地 ー科学と社会の架け橋

2025.1.20 (Mon) 13:30～16:00

科学技術の社会実装という表現が広まって久しい中、科学技術を享受するものの視点を積極的に取り入れ共に創り上げていく「インクルーシブデザイン」の精神と変遷について学び、具体的な事例を通じて科学技術と社会のギャップやこれからを考える機会とします。作り手が使い手の視点をもっと知り、意識していくことで、より良い社会を考えていく道標となることを期待しています。

参加申込はこちら



参加費：無料

定員：100名

場所：国際電気通信基礎技術研究所（ATR）大会議室
（京都府相楽郡精華町光台2丁目2番地2（けいはんな学研都市））

<お問合せ>

奈良国立大学機構奈良カレッジズ連携推進センター

(TEL) 0742-20-3411

(Mail) yamato-class@cc.nara-wu.ac.jp



プログラム

- 13:30 開会挨拶 木戸出 正繼 氏 (ATRメタリサーチイノベーション協会 代表理事)
- 13:35 基調講演 平井 康之 氏 (九州大学大学院芸術工学研究院・ストラテジックデザイン部門 教授)
「インクルーシブデザインとは」
- 14:30 話題提供① ライラ・カセム 氏 (奈良女子大学・工学部 特任准教授)
「実験と実践の先にあるインクルーシブの本質」
- 14:50 話題提供② 塩見 昌裕 氏 (ATRインタラクショナル科学研究所・エージェントインタラクショナルデザイン研究室 室長)
「ソーシャルロボットとインクルーシブデザイン」
- 15:10 休憩
- 15:20 パネルディスカッション
登壇者：平井 康之 氏、ライラ・カセム 氏、塩見 昌裕 氏
ファシリテーター：小出 直史 氏 (奈良女子大学・社会連携センター 特任准教授)
- 15:50 総括 才脇 直樹 氏 (奈良女子大学大学院工学系 教授)
- 16:00 閉会

登壇者プロフィール

(写真：川本聖哉)



九州大学大学院芸術工学
研究院・ストラテジック
デザイン部門
教授

平井 康之 氏

英国王立芸術大学院 (RCA)、
米国IDEOを経て、2000年九州
芸術工科大学助教授、2003年
九州大学准教授、2016年から
現職。オフィスデザインや商
品開発の経験をもとに、2003
年よりインクルーシブデザイ
ン研究をRCAの研究所である
ヘレンハムリン・センター・
フォー・デザインと始める。
2014年からインクルーシブデ
ザインをもとに行政デザイン
であるソサエタルデザイン研
究にも取り組む。著書に「イ
ンクルーシブデザイナー社会
の課題を解決するデザイン」
学芸出版社など。IAUD国際デ
ザイン賞、Red Dot賞、グッド
デザイン賞、キッズデザイン
賞など受賞多数。

(Photo by SOLITI)



奈良女子大学・工学部
特任准教授

ライラ・カセム 氏

日本生まれのイギリス人。
2016年東京藝術大学大学院博
士課程修了。デザインの専門
性を活かし支援を必要とする
障害福祉の現場の人々と共
に、立場やアビリティ問わず
包括的な社会参加や自立に
つながる商品の制作・開発プ
ロジェクトに国内外で取り組
む。2017年から関わる「シブ
ヤフォント」ではクリエイテ
ィブディレクターを務める。
同プロジェクトはグッドデザ
イン賞、日本イノベーション
大賞、台湾 Golden Pin Design
Award、iF デザインアワード
など国内外のアワードを数々
受賞。2021年からGOOD
DESIGN 審査員を務め、2023
年4月から奈良女子大学の特
任准教授に就任。



ATRインタラクショナル科
学研究所・エージェント
インタラクショナルデザイ
ン研究室
室長

塩見 昌裕 氏

2001年舞鶴工業高等専門学校
電子制御工学科卒業。2003年
和歌山大学システム工学部卒
業。2004年大阪大学大学院工
学研究科知能・機能創成工学
専攻博士前期課程修了。同年
ATR知能ロボティクス研究所
研修研究員。2007年大阪大学
大学院工学研究科知能・機能
創成工学専攻博士後期課程修
了。博士 (工学)。ATRインタ
ラクショナル科学研究所・エ
ージェントインタラクショナル
デザイン研究室室長としてコ
ミュニケーションロボットの
研究に従事。コミュニケーション
ロボット、集団とロボット
の相互作用、ソーシャルタッ
チに興味を持つ。



奈良女子大学・社会連携
センター
特任准教授

小出 直史 氏

薬剤師であり、医学博士。理
化学研究所にてiPS細胞を用い
た眼(網膜)の再生医療に従事
し、神戸アイセンター病院や
スタートアップの立ち上げに
携わる。内閣府SIPにて視野障
害に対する高度運転支援シス
テムの研究に取り組み運転外
来を実践した。2020年からは
大阪大学にて、人文科学・社会
科学の研究振興と共創のあり
方を探求。現在はコロナ禍の
検証をテーマに研究活動する
傍らで、モータージャーナリ
ストとして健康運転寿命の延
伸や社会的受容に関する啓発
活動を展開。2024年12月より
奈良女子大学で奈良カレッジ
ズの確立に向けた新研究グル
ープの立ち上げに従事。